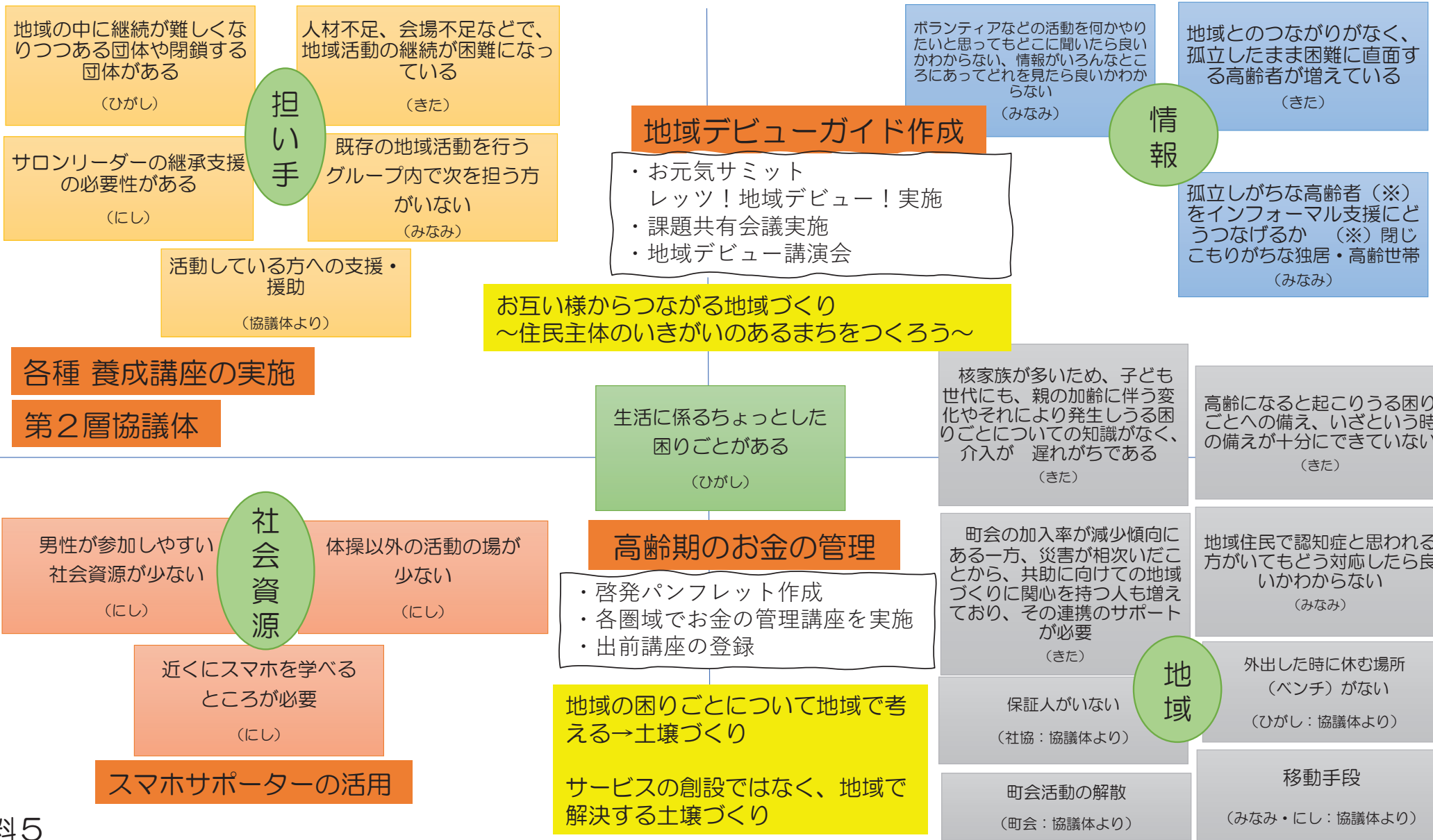




	令和5年度・令和6年度 第2層協議体実施内容					
	圏域	活動名	課題	目指すゴール	必要な取り組み	実施してよかったこと
新規立ち上げ	きた	梶野町オレンジカフェ	だれでも気軽に集まって話せる場所を地域に増やしたい	地域の事業所や住民との連携	ボランティア・担い手の育成	
	みなみ	天神ポッチャの会	おしゃべりと軽く体を動かす活動の場があると良い	天神ポッチャの会立ち上げ 意思統一	令和6年度から自主化決定。活動保険、いきいきサロン加入の手続き	
		貫井住宅認知症カフェ	住民主体の認知カフェ	住民も一緒になって開催する認知症カフェにしていくことの共通認識をつくる	自治会役員の負担あり。参加者から人材育成、住民主体へ	
		貫井住宅さくら体操	貫井住宅集会所のさらなる通いの場のニーズはある。住民主体による通いの場を増やす必要がある	住民による自主グループ設立への気運をつくる	組織化へ消極的。自治会以外の近隣住民参加の窓口を広げ、協力しあいながら定期開催へ人材発掘が必要	
	ひがし	料理クラブたちばな	サービスC終了後、自身の強みを地域で生かす	自主グループの立ち上げ	いきいきサロン事業登録。飲食について確認が必要 会計担当の確保	
		スマホちょこっと相談室（荻の家）	東小金井エリアに相談室がない	東圏域の相談室確立	自転車置き場の確保、整理人員が必要か	
		さくら体操（荻の家）	さくら体操自主活動グループの立ち上げ	「荻の家」を活用し、自主活動を始動する	いきいきサロン事業登録 会計担当の確保	
	にし	ぬくい温ぬくサロン	近所で見守りができる場が必要（高齢者の孤立化・認知症状の早期発見）	さくら体操自主グループの立ち上げ	人が集まる場所、異世代交流、コミュニケーションの場 近隣の町会との連携	
継続支援	きた	おしゃべりサロン（旧ピアサロン）	ピアサロン活動終了後、活動継続に向けて	継続するためにはどうすればよか、互いに行えること意見交換	サロンリーダーのほか、近隣薬局と民生委員の協力 一人で長く話し続ける人の対応	
	みなみ	四小さくら体操の会	リーダーが昨年より一人欠員し、リーダー一人体制。リーダー負担の無い活動継続の仕組みがない	具体的にどのような不安や課題があるか共有し、今後の話合いの土壌を作る	リーダー一人体制、高齢化、会場予約等みんなて運営していくための継続的な話し合いが必要	
	ひがし	さくら体操（荻の家）	今後の活動の方向性について検討	皆が賛同した形で活動の方向性、継続性を決定する 次年度の運営方法の決定	会場サポート、会計フォローをしながら自主化を目指す	
	にし	本町住宅けんこうサロン	参加メンバーの固定化、新規参加者が増えない 住民主体の活動に向けて	活動継続の意思確認 活動の見直し	情報発信、イベント実施 参加者同士のおしゃべりの時間をつくる	
		恒春会（さくら体操）	リーダー欠員・今後の運営について	参加者の活動継続の有無の意向確認 継続の場合、活動の見直し	新代表・副代表を決定 町会との連携	
連絡会・多様な連携	きた	さくら体操自主グループ リーダー連絡会	安心して活動を継続していくために、気軽に相談したり、意見交換する場をつくり、リーダー業務の負担軽減することが必要	リーダーの活動の様子を共有、今後の活動の参考にする。 課題について意見交換、リーダー同士の連携をうながす	後継者不足、担い手不足	
		ないまぜの会	地域の住民、事業者が集まり、互いの活動について情報提供、情報共有を実施。 そこから協働して地域のためにできる活動を模索する。	互いの活動を尊重しながら、協働できることがらを検討し、実行する その他、参加者から随時提案された議題について、会で検討し、解決を目指す	テーマを決めず、やりたいことを形にしている。 人材発掘・人材育成	
		防災女子会 （防災カフェさくら）	地域住民のあいだでも防災に対する意識が高まっている。 防災については自助に加え、地域で住民同士が支えあう 共助が欠かせない 共助の基盤となる自治会・町会の活性化が必要	防災士や地域防災に関心のあるメンバーが情報交換を行い、地域のために協働できる活動を模索する 「きた包括防災講座」ははじめ、防災のための包括の取り組みに対し、提案、協力いただく	防災意識を地域住民へ広く広げる	
	みなみ	サロン連絡会	連携することで、相乗効果を期待したい。交流ができていない。	団体同士の連携、お互いの顔の見える関係の構築	連絡会の再構築 人材発掘・育成	
	ひがし	ぶらっとふぉーむ六地蔵運営委員会	主催事業の開催をしたい スペースの活用	主催事業を始める	美化活動開始 貸しスペースの運用・周知	